

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13922

研究課題名(和文) 臨床的有意性を考慮した教育臨床心理尺度の開発と適用

研究課題名(英文) Development and Application of an Educational Clinical Psychology Scale from the Perspective of Clinical Importance

研究代表者

桂川 泰典 (Katsuragawa, Taisuke)

早稲田大学・人間科学学術院・准教授

研究者番号：20613863

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：学校教育臨床に利用可能な臨床的有意性に配慮した測度の開発を行った。測度の開発においては、客観的で観察可能な事象であること、学校や家庭等の複数の場面で共有できること、教育臨床上の問題と強く結びつくことを重視した。また、教師文化や指導の特性を考慮して、問題や不適応状態への介入だけでなく、教師が子どものポジティブな側面への介入を行った際の指標の変化や教師自身の変化・成長についても介入・検討を行った。これらの介入を通して、教師自身の児童生徒への認知が変化するとともに、ワーク・エンゲイジメントの向上やバーンアウトの予防にも効力をもつという副次的な結果も確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校教育現場で利用可能な心理測度の開発を行った。学校教育現場において心理状態を測定する指標はこれまでも多く開発されているが、その多くは内在的問題(例えば、不安やうつ気分)に関するものであり、外在的問題(例えば、周りから見てイライラしている、遅刻する)に関するものは極端に少ない。現場の教師は、日頃の児童生徒の様子から心理状態の「見取り」を行っているが、教師の感覚と実際の内在的・外在的指標との関連は十分には検討されていない。また、それらの指標の家庭場面での出現等についても検討を行うことで、学校と家庭が連携して児童生徒支援を行っていくための共通指標について検討できた点は本研究の意義である。

研究成果の概要(英文)：We developed a measure from the perspective of clinical importance that can be used in school. In the development of the measurements, it was necessary to ensure that the events were objective and observable, that they could be shared in multiple settings such as schools and homes, and that they were clinically relevant. In addition, taking into account the Japanese teacher culture, we not only intervene in children's maladaptive conditions, but also The effect of the intervention on positive aspects was also examined. In addition to the changes in the children, we also intervened and examined the changes and growth of the teachers themselves. Through these interventions, teachers' own cognitions of their students changed and The secondary results of improving work engagement and preventing burnout Confirmed.

研究分野：臨床心理学

キーワード：臨床的有意性 称賛行動 不登校

## 1. 研究開始当初の背景

多くの学校教育現場において、心理尺度を用いた児童生徒のアセスメントが行われている。しかし、残念ながら現場教員の生の声の多くは「テスト結果を活用すべきとは思いながらも、忙しくてやりっぱなしになっている」というものである。心理尺度を「やりっぱなし」で終わらせないためには、日頃教員が見ている子どもの実態とテストの数字がどのように結びついているか、その具体的なつながりを実感してもらう必要がある。介入により尺度得点が有意に増加した場合、それにより子どもの日常臨床像がどのように変化したのかについても検討されることが重要となる。

またこれまでに開発されてきた尺度の多くは内在的問題(例えば、不安やうつ気分)に関するものであり、外在的問題(例えば、周りから見てイライラしている、遅刻する)に関するものは極端に少ない。現場の教師は、日頃の児童生徒の様子から心理状態の「見取り」を行っているが、教師の感覚と実際の内在的・外在的指標との関連は十分には検討されていない。また、それらの指標の家庭場面での出現等についても検討を行うことで、学校と家庭が連携して児童生徒理解および支援にあたれることが重要となる。

## 2. 研究の目的

学校教育臨床に利用可能な臨床的有意性に配慮した心理測度の開発を行った。測度の開発においては、客観的で観察可能な事象であること、学校や家庭等の複数の場面で共有できること、教育臨床上の問題と強く結びつくことを重視した。

## 3. 研究の方法

海外の文献研究を行い、教育分野における「臨床的有意性」の適用に関わる構成概念やその測定がどのようになされているかについて調査を行った。

測度の開発は、現職・退職教員および教育臨床支援にあたってきた心理士に依頼し、その構成概念および質問の検討を行った。

公立中学校の教師・児童の協力を得て、調査を行った。測度の開発にあたっては、「精神的充足・社会的適応力」評価尺度、抑うつ、不安等の心理指標および教師による観察、欠席情報等の客観指標との関連を検討するとともに、短期・長期の縦断調査を行うことにより再検査信頼性、予測的な妥当性についても検討を行った。

## 4. 研究成果

客観的で観察可能な事象であること、学校や家庭等の複数の場面で共有できること、教育臨床上の問題と強く結びつくことを重視した学校場面における心理臨床尺度の開発がなされた。

また、教師文化や指導の特性を考慮して、問題や不適応状態への介入だけでなく、教師が子どものポジティブな側面への介入を行った際の指標の変化や教師自身の変化・成長についても介入・検討を行った。これらの介入を通して、教師自身の児童生徒への認知が変化するとともに、ワーク・エンゲイジメントの向上やバーンアウトの予防にも効力をもつという副次的な結果も確認された。

これらの成果をさらに発展させるために学会シンポジウムを開催し、討議を行った。シンポジウムにおいては、学級における臨床的に有意な指導を、子どもたちの社会的態度や対人関係技能の育成、それを支える教師の認識やふるまい、またそれらの保護者側からの理解も含めた多軸的な視点から検討した。

上記の成果は、以下に発表・掲載されている(印刷中含む)。

### 【学術誌】

飯島有哉・桂川泰典(2020), 教師の賞賛行動と教師自身のメンタルヘルスの関連性, 学校メンタルヘルス, 23(1) 印刷中, 査読有

飯島有哉・山田達人・桂川泰典(2018), 教師が行う「ほめ」の構成要素に関する文献研究, 学校メンタルヘルス, 21(1), 181-193, 査読有

### 【学会発表】

桂川泰典・田中友梨香・飯島有哉・松葉百合香・山田達人(2019), 登校回避行動尺度作成の試み, 日本パーソナリティ心理学会第27回大会

Iijima, Y., & Katsuragawa, T. (2019), The Effects of Teachers' Praise on Stude

nts' Psychological School Adaptation, 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies

飯島有哉・桂川泰典(2018), 児童生徒への称賛行動が教師自身のメンタルヘルスに与える効果, 日本メンタルヘルス学会第22回大会

Iijima, Y., & Katsuragawa, (2018) T. The Relationships of teachers' praise with their burnout and work engagement. The 40th annual Conference of the International School Psychology Association, Tokyo

Iijima, Y., & Katsuragawa, T. (2018), The Influence of teacher's praise on students' cognitions: subjective adjustment to school and stress response. 2nd Regional Meeting of International Society for Adolescent Psychiatry and Psychology, Osaka

飯島有哉・山田達人・桂川泰典(2017), 教師が行う「ほめ」の構成要素に関する検討, 日本学校メンタルヘルス学会第21回大会

#### 【シンポジウム】

桂川泰典ら(2019), 子どもの育ちを基盤とした学級のユニバーサルデザイン化, 日本教育心理学会第61回大会

桂川泰典ら(2017), 社会情動的スキルの育成 その効果, 方略, 本邦における展開(学校教育を通して育む社会情動的スキル), 日本教育心理学会第59回大会

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 飯島有哉・桂川泰典	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 教師の賞賛行動と教師自身のメンタルヘルスの関連性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校メンタルヘルス	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯島有哉・山田達人・桂川泰典	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 教師が行う「ほめ」の構成要素に関する文献研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校メンタルヘルス	6. 最初と最後の頁 181-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 飯島有哉・桂川泰典
2. 発表標題 児童生徒への称賛行動が教師自身のメンタルヘルスに与える効果
3. 学会等名 日本メンタルヘルス学会第22回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iijima, Y., & Katsuragawa, T.
2. 発表標題 The Relationships of teachers' praise with their burnout and work engagement.
3. 学会等名 The 40th annual Conference of the International School Psychology Association, Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iijima, Y., & Katsuragawa, T.
2. 発表標題 The Influence of teacher's praise on students' cognitions: subjective adjustment to school and stress response.
3. 学会等名 2nd Regional Meeting of International Society for Adolescent Psychiatry and Psychology, Osaka (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桂川泰典
2. 発表標題 社会情動的スキルの育成 その効果, 方略, 本邦における展開 (学校教育を通して育む社会情動的スキル)
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯島有哉・山田達人・桂川泰典
2. 発表標題 教師が行う「ほめ」の構成要素に関する検討
3. 学会等名 日本学校メンタルヘルス学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桂川泰典・田中友梨香・飯島有哉・松葉百合香・山田達人
2. 発表標題 登校回避行動尺度作成の試み
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桂川泰典・綿井雅康・飯島有哉・大月友・藤井靖・菅野純・加藤陽子
2. 発表標題 子どもの育ちを基盤とした学級のユニバーサルデザイン化
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iijima, Y., & Katsuragawa, T.
2. 発表標題 The Effect of Teachers' Praise on Students' Psychological School Adaptation
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	飯島 有哉  (Iijima Yuya)		
研究協力者	山田 達人  (Yamada Tatsuto)		
研究協力者	松葉 百合香  (Matsuba Yurika)		